第 2016-18 号

恵みと真理のニュース

2016 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

息子の突然の事項と奇跡的な治癒過程を通して神様は家族の信仰を強くしてくださいました

私は子供の頃お祖母さんに導かれ始めて教会に行きました。イエス様を知らなくて礼拝も何か知らなかったですが村の姉と兄達と共に賛美を歌って礼拝をするのが楽しかったです。それで何も自ら教会に行き礼拝に参席しました。しかし、時間が経っにつれ礼拝にも興味を失って教会の外で友達と遊ぶのがもっと好きになりました。

今になって考えると主は私を愛して神様の子供にさせる計画して祖母を通して私を呼んだそうです。

私は結婚した後も世のことで集中して教会にはたまに行くぐらいで信仰生活を疎かにしました。そうして、神様に対する信仰も成長しなくて神様より世の学問と知識と自分の経験にもっと依存して生きました。歳月が流れて息子が大学生になって休学して軍隊まで無事に除隊して大学に復学しました。

ところが、ある日夜遅く病院から急に連絡が来ました。息子が建物の欄干から落ちて傷を受けて今病院に運ばれているから早く病院に来るとしました。夜中でこんな電話がかかってきて嘘だと思って怒りました。すると看護者が落ち着いて状況を話し慰めて早く救急室に来るように私達を呼びました。夜中驚いて病院に走って行ったら呆れ当てました。

ベッドの上には見知らない青年が応急治療を受けていました。私はその場で動くことが出来なくて立ったまま見ていました。 頬骨が砕けて息子の顔の形が分からない程度だったからです。息子の名前を呼んだら息子は小さい声で“お母さんと答えました。”私の声を聞いたから死ななかったと思って安心しました。そして落胆と感謝の心が交わった涙が流れました。息子は救急処置を受けて集中治療室に運ばれました。医者が息子の状態を教えてくれましたが何も耳に入らなかったです。首の神経が大きく怪我され脳にも出血があって今日の夜が過ぎて状態を見て朝手術をするのを決定しようとしました。

私は前が暗くて涙だけ流しながら“神様どうしますか。神様どうしたら良いですか。”と言いました。夜もすがら神様に切に祈りました。私の口から悔い改める祈りと神様に約束する祈りをしました。

今まで神様を信じるとしても神様に不従順だった時間が後悔で神様に赦しを求め、息子を治療してくださいと朝まで祈りました。朝になって会った医師からすぐ手術はしなくても良いともう少し状態を見てみましょうとしました。“ハレルヤ。神様、感謝します。私の祈りにも答えてくださる慈しみ深い神様、小さい声にも答えてくださる真実な神様に感謝の祈りをしました。その日から本格的な検査と集中治療が始まりました。そして、医師から希望的な話を聞くことが出来ました。骨折した足の骨の接合手術がよく出来て脳の中に残っていた血も良く吸収されていて手術しなくても良いとしました。息子は早く回復して5日ぶりに一般病室で移動しました。

しかし、息子は夜中になると脳圧があがって辛い痛みで叫びました。もっと強い鎮痛剤を受けても痛みを耐えませんでした。苦痛で身悶える息子を見ながら何も出来ないから息子を抱いて神様に祈りました。祈る時に聖霊が慰めてくださいました。

神様は“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”（イザヤ書41：10）御言葉で力を与えてくださいました。 私が神様を仰いで切に祈ると苦痛で身悶えるした息子がある日は平安な顔で寝ました。どころが、この時神様は私の旦那を変化させると計画したと思います。

ある日は息子の苦痛が酷くてもっと身悶えるしました。私が祈りをして御言葉を黙想しても息子の痛みはおさまなかったです。ちょうど旦那が病室でこんな状況を見ました。その瞬間だんなに“なぜ、見るだけですか早く神様に祈りなさい。神様を不信したことから悔い改めなさい。”神様がくださる大胆さで大きい声で話しました。すると旦那がすぐその場で膝をまずいで涙を流して祈りました。その姿で驚いた私も膝をまずいて祈りました。主の名を呼んで神様に栄光をさげ助けを求めました。

このことがあった後から神様の恵みで息子の状態が急に良くなりました。朝ことに脳圧で苦しんでたのがなくなりました。完全に回復するまで長い治療の時間が必要だと話と違って息子の回復の速度は早くて担当医師も驚くほどでした。周りの人から否定的な話を聞いたが息子は一ヶ月ぶりに退院しました。神様が治療の奇跡を与えてくださいました。その後、息子は健康な姿で大学の過程を終わって今は大学院に入って全額奨学金を受けて熱中しています。私は息子の突然の事項を治療してくださった神様の恵みを通して“卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。”（詩篇119：71）この御言葉を確実に悟りました。そしてどんな苦難も私には有益だと思い感謝する心を持つようになり、イエス様以外には何も尊いものはないです。神様は私と旦那の信仰を強くしてくださって区域職分も与えて下さり以前には知らなかった捧げる喜びも感じるようになりました。ハレルヤ！

神様の愛と恵に感謝して美化部で奉仕をしました。私は一つの腕を自由に動くことが出来なくてはじめは人々の心配の中で奉仕をはじめました。そんな私を神様が良く見て治療をしてくださって今は楽しい心で熱心に奉仕しています。

わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し。命を墓から贖い出してくださる。（詩篇103：２～５）

神様の驚くな恵と愛を同表現できますか？“あなたがたは、主キリスト.イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかり守って、あふれるばかりに感謝しなさい。”（コロサイ信徒の手紙２：６，７）

御言葉を従ってどんな状況でも神様を信頼して愛し、感謝し栄光のため生きます。

［信仰コラム］

私は信仰で生きます

”神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、「信仰による義人は生きる」と書いてあるとおりである。”（ローマ１：１７）

’信仰’を言及しなくてはキリスト教やキリスト人について話すことができません。’信仰によって生きる人’という呼称は、キリスト人とはどのような人であるかを適切で含蓄性を持って説明する呼称の中で一つです。”信仰によって生きる”というお言葉に含蓄されている核心的な意味を探してみましょう。

第一は、信仰によって永遠に生きるようになるという意味があります。

”とこしえの命を得るためには正しい人にならなければならない”ということと”正しい人になる十分で必須な条件は信仰である”というメッセージは聖書全体を一つに通す真理です。’正しい人’とは罪が全然ない人をいいます。人の努力で正しい人になる道は全然ありません。人間は罪の中から生まれ罪を犯しながら生きて、神様の怒りと審判を受け滅亡するしかありません。このように絶望的な人生に福音が宣布されました。ただ信仰によって正しい人になるという消息です。正しい人になるようにする信仰とは、罪人の罪を代わりに担ってなくすためにこの世にお越しになり十字架につけられ尊い血を流れ死なれたが、死亡を勝ち三日目に蘇られたイエスキリストを信じる信仰です。誰でもイエスキリストを信じるとイエス様の尊い血によって罪のぬぐいを得て正しくなります。そして、聖霊によって生まれ変わるようになります。生まれ変わった人にある’新たな生命’は人の努力では持つことができません。キリスト人と非キリスト人の差は外貌にあるのではなく生命にあります。”その魂に新たな生命があるかないか”という差です。聖書は’新たな生命’を言い換え’とこしえの命’だといいます。’とこしえの命’とは永遠に生きること以上です。とこしえの命を得た人がこの世を離れると天国に入り主と共に永遠に生きるようになります。

地獄はサタンとその使者達のために備えられたことであるが、人々がサタンの誘いを受け犯罪したため地獄に行くのです。人間の敵であり仇であるサタンは人々が神様に犯罪して地獄に入るようにする事を行っています。人々が無神論者になるよう慫慂（しょうよう）し、宗教心が強い人々を偶像崇拝者になるようにして福音を信じようとする人々には肉の欲と目の欲、そして持ち物の誇りで迷わして変質して混合された他の福音を信じるようにします。悪賢いサタンがこのように暴れるが、神様が選択なさった人々は聖書に掲示された通りの福音を信じます。この信仰によって正しい人になり、とこしえの命を得て、天国に入るようになります。

第二は、日ごとに信仰によって生きていくという意味があります。

聖書にはとこしえの命と天国に対する言約だけではなく私達がこの世で生きる間に享受できる言約を数多く記録しておきました。このような言約は私達に神様が共におられてくださり、救われてくださるという信仰を持つことができるようにしてくれます。この信仰を持つと貪欲にとらわれません。人を恐れないようになります。また、癒しの恵みを神様に大胆に求めることができます。癒しのお祈りは聖書に言約されたお言葉に根拠し、イエス様の購いの恵みに根拠します。そして、この信仰を持つと泰山のような問題が解決され苦難が有益になることを体験します。信仰生活によって受ける逼迫と損失を喜びで忍耐しながら克服するようになります。

聖書が示す信仰とは自己暗示や訓練を通じた肯定的、積極的な考えや信念ではありません。聖書に掲示された神様の言約を信じることです。このような信仰で生きる人の心には常に望みが満ちています。艱難と試し、逼迫を受けても落胆しません。その全てのことが神様から称賛、尊貴、光栄を得るようにする器になることを期待します。神様がその期待の器に溢れるほど満たしてくださいます。

皆さんは”私は信仰で生きます。”と言うことができるよう願います。そして、その言葉に含蓄された意味を他の人々の伝えながら教えるようになるよう願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様の賜物

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

贈り物は取り交わす人皆に楽しみを与えます。贈り物は対価を望まないで与えるものであり、愛と情が盛られているからもっとそうです。好きな人、愛する人、尊敬する人から 贈り物をもらえば幸せを感じます。人が受ける贈り物の中に何とも比べることができない最上最高の賜物があります。 受ける人の運命を完全に替えて置く途方もない賜物です。 それは神様がくださる賜物です。 人生の成功と失敗、幸せと不幸は神様の賜物に対する知識とその賜物に対する各人の態度によっています。

先ずに、神様のくださる賜物が何やらよく見ます。

すべての人は神様が人にくださる賜物が何やら分からなければなりません。
これが分からなければ不幸で悲劇的な人生になってしまいます。 エペソ人への手紙, 2 章 8 節に記録されるのを “あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。” と言いました。 救いの賜物は極めて驚くべきで貴重なのです。 第一は、罪の赦しを受けて義のあるようになるのです。二番目は、神様の子になるのです。 三番目は、天国で永遠に福楽を享受するのです。 四番目は、復活して変化された身を着るようになるのです。
神様がくださる神霊な賜物の中に聖霊で充満するようになることと聖霊の賜物があります。使徒ペテロは五旬節の日に集まった群衆に “すると、ペテロが答えた、「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。”(使徒行伝 2:38)と叫びました。 神様がくださる聖霊の賜物に関して コリント人への第一の手紙, 12 章には ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言、またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物、またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている。 この九種類が列挙されています。 ローマ人への手紙, 12 章には “わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。”と列挙されています。 こんな賜物は人が学んで努力して持つようになるのではなくて神様がくださる賜物です。 神様のみ旨の通りに一方的にくださったりするがまた信仰で求める者にくださる賜物です。

次に、神様がくださる賜物を受ける方法に対してよく見ます。

神様がくださる救いの賜物は信仰から受けます。神様がくださる救いの賜物を人間の行為という対価を支払って得ようと思うことが一番重大な過ちです。
1. 律法を守って行ったことあるいは自分の功績と徳行という対価を支払って救いを得ようとする人がいます。
ある人が駆けて来てイエス様の前にひざまつきました。 彼は若い金持ちで高い官職を持っていたし、律法をまじめに遂行する人でした。彼はイエス様に “私が何をすれば永生を得ますか?” と質問しました。 彼は真理が分かろうとする真剣さと熱情があったし謙遜な態度でイエス様に出て来ました。 この若い金持ち官員は次第どおりは宗教的戒律を守って善良な事に力をつくして来ました。 このくらいなら永生を得ないかと言う思いを持っていたのです。彼が期待したことは自分の行為に対してイエス様から肯定的な答を得ようと思ったのです。イエス様は彼におっしゃるのを “いましめはあなたの知っているとおりである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』」すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っております」。イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。” と告げました。 このようないましめは十戒命に含まれたいましめです。イエス様がこのようないましめをおっしゃることはこれを行うことで永生を得るからではないです。 実はこのようないましめが要求する内面的な意味を皆分かるようになればどんな人もいましめを完全に守ることができないという事実が分かるようになります。 ところで金持ち青年は直ちに答えるのを “先生よ、これは私が幼いごろからすべて守りました。” としました。 彼は律法が要求することをすべて分かることができなかったまま律法を守ると労力して来た人でした。 そして自分の基準に合わせて律法を理解して遵行して来たのです。 マタイによる福音書に見れば “まだ何が不足ですか?” という質問が付け加えています。 彼は人間が何を行って永生を得るという観念に深く濡れていたから彼が何をもっと行わなければならないか教えてくれと言いました。
イエス様はその青年を誤れていつわりでむなしい知識と信仰から脱するようにこんなにおっしゃいました。 “イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。” 薄情なお話のようであるが実はその金持ち青年を愛する心におっしゃったお話です。 イエス様はこの金持ち青年がその多い財物をすべて処分して貧しい者に分けてやる事は決してできないことをよくご存じでした。 金持ち青年がイエス様のお話をきいてその席から “イエス様、私が律法では義のあるようになることをもう分かりました。私を助けてください。”と叫ばなければなりません。 ところで金持ち青年は “悲しい気配を持って” “甚だしく心配して” イエス様を離れ去ってしまいました。 イエス様は金持ち青年と自分の対話をきいていた弟子を見回しておっしゃるのを “「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。” としました。イエス様のお話をきいて弟子が甚だしく驚いて “「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。” としました。 ここに福音が啓示されました。 救いは神様だけがなさることができる事です。神様は福音伝える事を救いをもらった信者がするように言い付けました。聖徒に与えられた特権です。 しかし驕慢と愚鈍な人生を低めて破りながら悔い改めるようになさることは神様だけでなさる事です。 私たちの考えには到底イエス様を信じないような人でも福音を伝えなければなりません。 “「人にはできない事も、神にはできる」”となさったイエス様のお話を固くつかんで熱心をつくして忍耐して福音を伝えなければなりません。
2. 神様がくださる神霊な賜物をお金をくれて得ようと思う人がいます。
エルサレム教会の執事であるピリピがサマリアに行って福音を伝えたら大きい奇事が起こったし多くの人々がイエスキリストを信じました。魔術師であるシモンもピリピの説教をきいて洗礼まで受けました。 サマリア人々が福音をきいてイエスキリストを信じるようになったという消息がエルサレム教会に知られました。 ペテロとヨハネが派遣されてサマリアの信者に按手したら彼らが聖霊を受けました。 これを見たシモンがペテロにお金をくれながら申し入れるのを “この権能を私にも与えて誰でも私が按手する人は聖霊を受けさせてください。” としました。 ペテロがシモンに言うのを “そこで、ペテロが彼に言った、「おまえの金は、おまえもろとも、うせてしまえ。神の賜物が、金で得られるなどと思っているのか。おまえの心が神の前に正しくないから、おまえは、とうてい、この事にあずかることができない。”(使徒行伝 8:20,21) としました。 聖霊を受けることは神様の賜物です。 聖書には神様の賜物、イエスキリストの賜物、聖霊の賜物、恵いの賜物、義の賜物、天の賜物などの表現があります。 このすべての表現は対価を願うのがなしに神様がただでくださることを示します。神様がくださる救いと神霊な賜物をお金や人間の功労を支払って得ようと思えばイエスキリストから断絶された者になって滅亡をまぬかれることができないです。

終りに、神様の賜物をもらう人が現わさなければならない望ましい態度をよく見ます。

第一、感謝する心で受けなければなりません。第二、その賜物を楽しまなければなりません。神様がくださった救いと神霊な賜物によって幸せで楽しむのが賜物をくださった神様を栄えさせます。 第三、誇らなければなりません。 コリント人への第二の手紙, 10 章 17 節に “誇る者は主を誇るべきである。” としました。世の中に属したこと、肉身に関する誇れば驕慢に見えるようになって妬みの対象になりやすいです。 しかし神様のあわれみを着て助けを受ける事を言うことは主の中で誇ることで神様を嬉しくします。 神様がくださる神霊な賜物よりもっと貴重なことはないです。 こんな賜物は世の中が与えることができずに奪うことができないです。 この賜物は愛の賜物です。 このような賜物に関する消息が福音です。
神様がくださる救いの賜物と神霊な賜物が何やら分かって、この賜物を信仰で受けた皆さんはまだこれを分からない人々に知らせるためにつくしてください。 そして途方もない賜物をくださった神様に感謝を積極的に表現してください。 このように驚くべきで貴重な賜物をもらった者らしくいつも喜びながら生きて行くように願いします。